

はるその常北高校

2月22日から27日までの6日間、常北高校の生徒会2名（会長：田口恭平、副会長：久保田諭）と引率の坏雄太教諭がサイパンのカグマン高校を訪問しました。カグマン高校で授業に参加したり、ホストファミリーとともにサイパン島やマニャガハ島の観光名所や戦争跡地を訪れたりしました。帰国時には、お世話になった先生方や生徒たちに感謝し、別れを惜しまました。今回の数々の貴重な経験が今後の高校生活で、また卒業後も活かされていくことを確信しています。



初めての海外研修を終えて

2年1組 田口 恭平（水戸五中）

サイパンに行って改めて、いろいろなことを感じました。まず、当たり前ですが、日本と外国との文化の違いを学びました。アメリカ力というのは自由な国というイメージがあると思いますが、まさにその通りだと思います。別の言い方をすると、自由なのではなく自分の責任は自分で持つという印象でした。なぜならば日本では注意を受けるくらいに些細なことでもサイパンでは即刑務所行きなど、自由な分、罪を犯したら例えば小さなことでも罰は厳しいです。次にサイパンでは免許が16歳から取得できます。僕はアレクシス（A. J）やカール（C. J）の運転で学校に行ったことに驚きました。同じ歳の人が車を運転していると、とても不思議な気分です。また、学校も日本とはまったく違って自分の教室がないのです。日本でいう大学みたいなもので、時間になったら授業の教室に行き、帰る時間になったら勝手に帰るというシステムです。また、アメリカ力といったらわかるとは思いますが、食べる量が驚くほど多いのです。しかし残すのはもったいないと思い、毎食すべて食べました。しかし…次の日は下痢でした。というよりも、毎日お腹の調子が悪く下痢に悩まされ大変でした。このようにサイパンでたくさん学び、たくさん遊び、本当に楽しく貴重な体験をすることができました。

けれども最後に、サイパンに行って最も考えさせられたことがありました。それは戦争です。あんなに美しい島が、太平洋戦争では最も激しい激戦地だったと言われています。僕も実際に戦場の跡など、いろいろ連れて行ってもらい、数々の跡地を見てまわりましたが、日本軍の戦車やミサイル、砲台、防空壕など実際に使われていた兵器等がたくさん置いてありました。また、メモリアルパークで歴史の映画を観たり、戦場についての資料を見たりして、戦争について改めて考えさせられました。戦争という何の得にもならない悲惨なことは日本ではもう二度とないと思いますが、これから僕たちが日本だけではなく世界中から戦争をなくしていかなければならないと思います。そのためにも、このようにお互いの国へ行ったりして、お互いの文化や宗教などを尊敬しあい、常に国々が仲良くなればと僕は思いました。海外へ行くことができ本当にとっても楽しく、とても勉強になりました。また機会があれば日本を離れ他の国へ行きたいと思っています。



サイパントレビューン新聞記事 2006年2月27日付

カグマン高校が常北高校の生徒をもてなす

カグマン高校が日本の常北高校の生徒2名をもてなすのはこれで2回目である。高校2年生の生徒会長田口恭平と高校1年生の副会長久保田諭が、交換留学で現在サイパンに訪れている。理科の坏雄太教員が二人を引率して北マリアナへやってきた。3人は先週水曜日サイパンに到着した。常北高校は日本の茨城県に位置する。久保田は、「地方からきたが、サイパンの美しさには本当に感動している。友だちと綺麗な海で泳ぐことを楽しみにしている。」生徒は最初の2泊を、カグマン高校の生徒、A Jヘーランの家でホームステイし、あちこち連れて行ってもらった。ストリートマーケットでは、初めてアピギギを食べたり、ほかにも地元の食べ物を味わった。「サイパンの食べ物はとっても美味しい。」と田口。坏先生は、サイパン訪問をビデオテープに収め、帰国したら、今回の旅行を常北高校の全校生徒に報告する予定である。昨年11月、カグマン高校の生徒15名と先生1名が常北高校を訪れた。カグマン高校の生徒は日本の学生との交流をとっても楽しんで、サイパンで再び坏先生などに会えたことを喜んでいる。土曜日、日本の学生は、ホストファミリーとマニャガハ島へ遊びに行き、昨日はマイクロビーチでバーベキューを楽しんだ。今日、最後のお別れにカグマン高校へ行き、そして日本へ帰国する。

